

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第1部第2部特別課程第47期）

全国市町村国際文化研修所 総務局総務課 辰巳 佳穂

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1. はじめに

第1部・第2部特別課程第47期を卒業し、48期の準備を進める最中にこの原稿を書いています。

47期卒業生として、またマネジメントコース研修生であり48期の担当として、第1部・第2部特別課程の受講を検討する、またすでに受講を予定されている皆さまの参考になればという思いで書き進めます。

2. 研修開始まで

「東京で半年働かへんか？」

令和5年の12月。突然ふって湧いた話に驚きました。働く前の1ヶ月間は自治体の幹部候補の女性と共に研修を受けると聞いて2度驚きました。公務員ではなく財団職員である私は、自治体職員向け研修というだけでも少し尻込みしてしまうのに、幹部候補生向け！？全くついていける気がしません。ちょうど研修の対象となる職階の方々は、小さなお子さんがいらっしゃる方ばかり。半年家を空けるのが難しいであろうことは想像できましたが、それにしても幹部候補生という響きはまだちょっと、いやだしぶ重たい。

でもそんな方々と長期間一緒に過ごす機会は今後絶対にないだろう。東京で生活する機会も、これを逃すとおそろくない。その2点で、断る選択肢は消えました。

7月頃からは、事前課題に追われました。提出物に、eラーニング。取り組んでいると、やっぱり不安になってきます。きっと皆さん優秀なんだろうなあ…。これくらい知っ

てて当たり前の人たちなんだろうなあ…。演習ってどんなことをするんだろう、足手まといにならないといいな、怒られたりするかなあ…。

研修スタートの1週間前。研修の入寮日より少し早く入寮し、教務部に籍を置きながら仕事や研修の準備をしていました。マネジメントコースの同期の方は皆さん良い方ばかりで安心したものの、夜は麗澤寮6階の広いフロアにポツンと1人。また漠然と不安になってきます。1ヶ月、どんな風になっていくのかな…。ぐるぐるした気持ちのまま、入寮日となりました。

3. 研修のカリキュラムについて

始まるとそんな不安を感じている暇もなく、1ヶ月が飛ぶように過ぎていきました。座学、グループ演習、個々人で進めるレポート作成と、カリキュラムが盛りだくさん。大きく分けてご紹介します。

(1) 講義

一コマ70分、大体の先生が2コマずつの講義です。どの課目も一流の講師陣からの講義で、短期間で幅広い分野について学ぶことができます。時には「専門的すぎる…！」と理解が追いつかない時もありますが、予習・復習や、今後も長く続くであろう公務員人生の中でさらに深めていくことを前提とした「学びの入り口」としての役割を果たしている講義です。

(2) 事例演習(テキスト型)

テキストに記載されている事例と、それについて自分の自治体の取り組みを調べる、といったような事前課題をもとに、各班で

事例についての討議を行います。研修生それぞれに自治体の背景や考え方が異なるため、多くの意見や具体例を聞くことで考えを深めることができます。47期は、防災、子育て、公民連携がテーマとなっていました。

(3) ディベート演習

お題に対して賛成・否定に分かれ、相互に主張をしあうものです。賛成・否定は自らの意思に関係なく、あらかじめ設定されています。決められた方向性に対して有効な論拠を探し説明する、相手の立場に立って主張を予測し、反論する等の力が身につきます。お題は例えば「議会答弁作成に生成 AI を活用すべき」「庁舎移転新築の際住民投票を行いその結果を尊重すべき」など、自治体の業務に関わるテーマで実施します。

(4) 特定政策課題レポート

いくつかのテーマから一つを選択し、自分の所属自治体に対して政策の提言を行うというものです。私は「女性活躍推進」を選びました。47期はこのテーマを選択した人も多く、レポートに直接書く、書かないに限らず、課外時間に女性活躍についての各自自治体の取り組みや個々の考えについて話す機会が多くありました。論点を整理しレポートにまとめる作業もちろん、テーマ設定がされていることで、そのテーマに関して自然と意見交換することができたことも大きな学びの一つです。

4. 一緒に学ぶ仲間が存在

研修の内容はもとより、私にとっては多くの自治体職員の方とお話し、現場の声を聞くことができたことが1番の学びとなりました。

47期は88人の大所帯。こんなにたくさんの方と短期間に、しかも密にお話する機会はそうないだろうと思います。あんな

に不安に思っていたのは全くの杞憂。これまでのご経験や仕事への向き合い方、人との接し方、後輩との関わり方等、多くの面で尊敬できる方ばかりで、研修中も課外時間もすべてが貴重で、幸せな時間でした。またこの研修は、これまで家事・子育てと両立して仕事をしてこられた、また現在進行形で子育てをしつつ研修に来られている方もかなりの割合でいらっしゃいます。そうした環境に身を置いたこと自体が、これからの自分自身の仕事人生、そして女性の働きやすい職場について考える上でとても有意義であったとも感じます。もちろん大変なことは多いと思いますが、今子育て中の方にはもしチャンスがあれば無理をしてでも受ける価値があると思いますし、人事課の方にはその機会を「子どもがいるから」という理由で潰さないでいただきたいと切に願います。

5. おわりに

これからの仕事に関して。私は冒頭述べた通り、自治体職員ではありません。研修生として多くの経験・学びを得ただけではなく、市町村向け研修を運営する研修所の職員としてもたくさんの学び・変化がありました。一緒に研修を受けている同期の皆さんが口にする、仕事へのモチベーションが上がった、変化があった、受けて本当に良かった、一生の財産だ、といった言葉の数々。それをたくさん耳にしたこと自体が、私自身の仕事へのモチベーション向上に繋がったと感じています。

そして研修生のモチベーション向上の先に、地方自治体の住民の暮らしの向上がある。直接住民に関わることはなくとも、自分の仕事の先にいる人を忘れず、これから始まる48期の運営に、そして今後も続く自分の所属での研修運営に生かしていきたいと強く思います。